

※本学図書館で所蔵している本は書名に赤線を引いています。資料ID番号で検索すると利用状況がわかります。

【教育学部 児童学科】

1

- (1) 書名 アイデアのスイッチ！－誰でも「ひらめき」が生まれる4ステップ思考法
- (2) 著者名 中沢剛
- (3) 出版社名 ダイヤモンド社
- (4) 配架場所 6F 開架閲覧室
- (5) 請求記号 141.5/N46 (資料ID 14003185)
- (6) 推薦コメント

皆さんは、「自由にアイデアを出して」と言われて困った経験はありませんか。アイデアやひらめきは、急に湧いて出るものではありません。そこには、アイデアを生み出す思考プロセスがあるのです。本書は、人が無意識にやっていた思考プロセスをわかりやすく説明しています。幼児期の子ども達はアイデアの塊です。そんな子ども達の発想を楽しむことができる保育者を目指して、ぜひ一読をお勧めします。

2

- (1) 書名 ぶたのたね
- (2) 著者名 佐々木マキ
- (3) 出版社名 絵本館
- (4) 配架場所 5F 開架こども図書館
- (5) 請求記号 E (資料ID 13267294)
- (6) 推薦コメント

特別支援学級の読み聞かせでは、とても人気のある絵本です。絵本の読み方や間の取り方によって一緒に楽しむことができます。ぞうが走ってくるときには、絵本を揺らしたりと工夫をしました。

ことばの教室でも活用しました。「ta」が「ka」の発音になってしまう児童に「butatachi」と「ta」がたくさん出てくるので音読の練習をしました。そして、仕上げて都立大学駅近くにある「ニジノ絵本屋」のスペースを貸切って発表会をしました。楽しい思い出です。

3

- (1) 書名 **てぶくろ：ウクライナ民話**
- (2) 著者名 ラチョフ絵/内田莉莎子訳
- (3) 出版社名 福音館書店
- (4) 配架場所 5F 開架こども図書館
- (5) 請求記号 E (資料 ID 02704307, 03270793, 04098870, 13644926)
- (6) 推薦コメント

児童学科の学生が、ウクライナとロシアの昔話を探して読んでいる姿をみかけます。NEWS を聞きながら、少しでも彼の地に暮らす人々を身近に感じようとしているのでしょうか。あるいは、子どもたちに彼の地のことを問われたときに、答えられるようにと考えているのかもしれませんが。

昔話を読むだけでは問題は解決しないけれど、昔話があることで問題に対する心の壁を少し低くすることが出来る。そんな力が昔話にはある気がします。

4

- (1) 書名 **おおきなかぶ：ロシア民話**
- (2) 著者名 A. トルストイ再話/内田莉莎子訳/佐藤忠良画
- (3) 出版社名 福音館書店
- (4) 配架場所 5F 開架こども図書館
- (5) 請求記号 E (資料 ID 12508867)
- (6) 推薦コメント

児童学科の学生が、ウクライナとロシアの昔話を探して読んでいる姿をみかけます。NEWS を聞きながら、少しでも彼の地に暮らす人々を身近に感じようとしているのでしょうか。あるいは、子どもたちに彼の地のことを問われたときに、答えられるようにと考えているのかもしれませんが。

昔話を読むだけでは問題は解決しないけれど、昔話があることで問題に対する心の壁を少し低くすることが出来る。そんな力が昔話にはある気がします。

5

- (1) 書名 **いざ!に備える遊びで防災体験 BOOK**
- (2) 著者名 神谷明宏
- (3) 出版社名 いかだ社
- (4) 配架場所 5F 開架こども図書館
- (5) 請求記号 369.3/Ka39 (資料 ID 14012095)

(6) 推薦コメント

春先におおきな地震が起きました。不安な一夜を過ごした方も多かったのではないのでしょうか。本書にはおとなも子どもも楽しく遊びながら、いざというとき行動ができる用意をする方法が書かれています。紙袋で目玉焼きを焼いたり、フローティングキャンドルを作ったりという章は、夏休みの自由研究にもぴったり。靴下のヘビ人形は、保育室の人気者にもなりそう。防災の知恵は、日常を楽しくする知恵ともつながっているようです。

6

- (1) 書名 アフリカン・アメリカン児童文学を読む—子どもの本という「励まし」
- (2) 著者名 鈴木宏枝
- (3) 出版社名 青弓社
- (4) 配架場所 7F 開架閲覧室
- (5) 請求記号 909.3/Su96 (資料 ID 14003193)
- (6) 推薦コメント

子どもへの読書推進活動は盛んです。ですが、児童文学は誰がどのように読むために、誰が書くのでしょうか。善意が落とす影をも捉えながら、児童文学とその批評は何を目指すのかを問いかけるのが本書です。

アフリカン・アメリカン文化史として学ぶことは多いですが、似た問題は今私たちの周りでも起きています。子どもという当事者に寄り添い、励ましを与える本を選べるかは、我々大人にかかっていることを覚えていたいと思います。